

森田住宅の家づくり

基礎

家を支える大事な基礎だからこそ、ベタ基礎を採用

基礎の立上りだけでなく、底板一面が鉄筋コンクリートになっている基礎です。家の荷重を底板全体で受け止め、面で支えます。また、地面をコンクリートで覆うので地面から上がってくる湿気を防ぎ、シロアリの侵入も防ぎます。



基礎の骨組みとなる鉄筋を、通常20cmの間隔で配置するのに対して15cmで配置していき、より強固な基礎を作成していきます。
※フォレスト仕様のみ

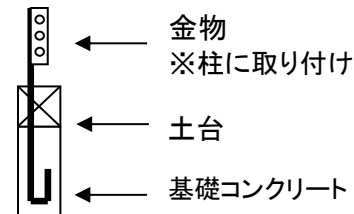
コーナー部分には、更に安心を

地震などの大きな力が加わると、基礎の隅に負担が集中します。この時に破損しないよう当社では更に補強しております。
※アクア仕様・フォレスト仕様

その他

見えないところも、安心していただくために

換気口や下地など完成してからでは見えない箇所。だからこそ、手を抜きたくありません。そんな当社のこだわりの一部をご紹介します！



基礎パッキン工法を採用

基礎コンクリートと土台の間に、一定の間隔ではなく連続で「換気用基礎パッキン」を挟み込み、床下全体の通気性を確保しています。

床下には構造用合板28mmを使用

フローリングの下には、12mm～28mmまでである中で1番厚い28mmの構造層合板(通常の合板より特に強度のある合板)を敷き詰めています。

結合部分は、ホールダウン金物を使用

地震や台風時に柱が土台や梁から抜けるのを防ぐ為に、ホールダウン金物を使用しております。

構造



木造軸組工法...

日本の伝統的な工法で、土台や梁などの横軸と、柱の縦軸、そして筋交いと呼ばれる斜めの軸で骨組みを支える工法。耐震性は、筋交いの入る壁を建物の隅部などに配置することで確保します。

耐震等級3相当で地震にも安心

耐震等級とは？

等級は、1～3まで3段階あります。数百年に一度、発生するといわれている地震(震度6強～7)に対して倒壊・崩壊せずに耐えられるレベルを表すもので、等級1で震度6強～7、等級2で1.25倍、等級3で1.5倍まで耐えられるとされています。

現行の建築基準法では木造住宅(2階建)であれば、等級1あれば問題ないとされています。当社では、より一層の安心をしていただく為に、等級3相当のレベルになるよう、建築いたします。